

宮城県林業普及活動情報

2025. 7月号 No. 206

もくじ

各地の林業普及活動情報

P 2～8

- 大河原産業高等学校環境科学科3年生の実習支援 (大河原地方振興事務所)
- 「木桶プロジェクト」に伴い木材利用を推進していくための支援 (仙台地方振興事務所)
- みんなの森林づくり推進プロジェクト事業の実施団体へ支援 (仙台地方振興事務所)
- ウルシ植栽の検討 (北部地方振興事務所)
- 大崎森林組合推進員会議における再造林支援 (北部地方振興事務所)
- ミズキ植栽に関する打合せ (北部地方振興事務所)
- 林業教室の現地研修 (北部地方振興事務所栗原地域事務所)
- 「全国育樹祭記念行事 地域のちいさな販売会」における特産林産物の販売支援 (東部地方振興事務所)
- 「古川工業高等学校林業就業体験」の支援 (東部地方振興事務所登米地域事務所)
- 搭乗型草刈り機による下刈り作業の見学会の実施 (気仙沼地方振興事務所)
- ANAこころの森活動支援(1回目) (気仙沼地方振興事務所)
- 学校法人尚絅学院大学の里山再生プロジェクトに支援 (林業技術総合センター)

大河原産業高等学校環境科学科3年生の実習支援

大河原地方振興事務所

【31日(木)】

県内で唯一林業関係科を有する宮城県大河原産業高等学校環境科学科3年生を対象として、林業の後継者育成のため、林業に関する基礎知識や専門的な技術の知見を深める目的で実習支援を行いました。本実習支援では、町産材を中心とした木質バイオマスの活用に取り組む七ヶ宿町で、木質バイオマスを生産する工場や木質バイオマスボイラーを用いて運営されている入浴施設の見学を行いました。各見学場所では事業体からの概要説明を受け、高校生たちは熱心に聞いていました。また、今後木質バイオマス等で利用が検討されている早生樹（ユリノキ）の植栽現場を見学し、取組を行っている事業体から説明を受けるとともに、植栽木の生育状況を調査するための樹木の測定方法について実習を行いました。合わせて、広葉樹材の生産を目的として造成された針広混交林を見学し、事業体から概要の説明を受けました。

参加した高校生からは、木質バイオマスや早生樹植栽に関する理解が深まったとの意見があり、林業に関する知見を広げることに寄与できたと考えられました。今後も同校の生徒に対して、林業に関する実習支援を継続し、林業の後継者育成に取り組んでいきます。



【木質バイオマス生産工場の見学】



【木質バイオマス利用施設の見学】



【早生樹植栽地の見学・実習】

「木桶プロジェクト」に伴い木材利用を推進していくための支援

仙台地方振興事務所

【16日(水)】

県産材で製作する木桶の普及を通じて木材利用の推進と木づかい文化の発信を広めるため、木桶を製作している石巻市の木材加工業者である「丸勝モルダー特殊加工」に同行してもらい、味噌の醸造元である「阿部幸商店」を訪問しました。

「阿部幸商店」では30石の大桶が多数仕込みに用いられています。木桶仕込みの味噌の歴史や製造工程について情報収集すると共



【情報収集の様子】

に、製作から約200年経過している木桶のメンテナンス方法等をお伝えし、県産材利用について情報提供しました。

引き続き酒・味噌・醤油・酢の醸造元と木材加工業のマッチングに取り組み、「木桶の文化」＝「木づかいの文化」の発信を通じて、みやぎの木材利用を推進していきます。

みんなの森林づくり推進プロジェクト事業の実施団体へ支援

仙台地方振興事務所

【23日(水)】

大和町で令和7年度みんなの森林づくりプロジェクト推進事業の活動を行っている団体に対して、本事業の概要説明及び現地指導を行いました。

今年度は事業内容が改正されたこともあり、改正点について活動組織に説明し、理解を得ました。また、事業区域及びモニタリング調査箇所の確認をするとともに、作業の際は熱中症等に注意して安全に活動する旨指導しました。

なお、本格的に活動が始まるのが秋口であるとのことから、事業の進捗管理についても引き続き確認し、実施終了後は書類作成の支援を行っていきます。



【現地指導の様子】

ウルシ植栽の検討

北部地方振興事務所

【3日(木)】

ウルシ植栽を検討するにあたって、鳴子漆工房の漆塗り職人と、漆塗りの置かれる現状を共有し、鳴子町内にあるウルシ林の現況を確認しました。管理されていない森林内にあったためアクセスが困難でした。

将来、軽い作業負担でウルシを掻くためには、平地での植栽が望ましいことから、引き続き植栽候補地の選定等に関し関係者の理解を得ていくことにしました。



【植栽候補地の検討】

大崎森林組合推進員会議における再造林支援

北部地方振興事務所

【9日(水)、10日(木)、14日(月)】

大崎森林組合から推進委員会における林業関連情報の提供を依頼されたため、相続登記の義務化と森林簿情報の修正と、再造林の推進について伝達しました。

相続登記の未実施については多くの関心が寄せられ、森林整備の推進に重要であることについて理解が得られました。再造林の推進については、補助事業を活用できることを伝達し、森林所有者との情報共有を依頼しました。



【概要説明】

ミズキ植栽に関する打合せ

北部地方振興事務所

【15日(火)】

こけしに使用されるミズキ材の安定供給を目指して大崎市農村環境整備課担当と打合せしました。

市からの情報提供として、挿し穂の確保と民間企業への委託で生産技術の確立と苗木生産を依頼しているとのこと。また、植栽については、鬼首地区における令和8年度を初年度とした10年計画の取組内容について説明を受けました。

当方からは、9月を目途に鳴子古戸前地区において、ミズキの種子採取を行い、登米管内の苗木生産者の協力のもと、種子からの苗木育成について実証試験を進めていく予定であることを情報提供しました。



【担当者との打合せ】

林業教室の現地研修

北部地方振興事務所栗原地域事務所

【1日(火)】

管内林業事業体や栗原市の新規採用者(計3名)を対象に、林業教室の現地研修を行いました。受講者はいずれも林業関係学校出身ではなかったため、これまで経験していない測量、測樹、間伐の3項目を基礎から学んでもらいました。

測量においては現在GPSが主流となりつつありますが、基本に立ち返り、ポケットコンパスで近くのヒノキ林内に任意設定した区域を測量し、作図と閉合誤差修正を経て、区域面積の算出を行いました。

次に、当該区域内に抽出地点(プロット)



【ポケットコンパスの仕組みについて詳しく説明しました】

を設定・測樹し、樹高曲線を描いて平均樹高を導き、区域内の総材積を算出しました。

間伐においては、密度管理図を用い、収量比数及び立木密度から必要とする間伐本数を割り出し、現地に戻り伐木を選定しました。

このように面積や樹高の算出、収量比数から導き出される間伐率の算出など、パソコンソフトに頼らない方法で、基本的理論や作業工程等について理解する研修となりました。



【熱中症に注意し、効率よく作業を実施】

「全国育樹祭記念行事 地域のちいさな販売会」における特用林産物の販売支援

東部地方振興事務所

【16日(水)】

県石巻合同庁舎1階ロビーで毎月第3水曜日に開催されている「地域の小さな販売会」において、全国育樹祭記念行事として、管内で生産された菌床しいたけなどの特用林産物の販売支援を行いました。

当日は、出品したいずれの商品も完売となり、管内で生産された特用林産物の販売支援に繋がりました。また、今月は、販売支援だけでなく、来場者に対して、今秋、本県で開催される全国育樹祭について、広く説明しPRすることができました。

今後も引き続き、同販売会において販売支援を行い、管内の特用林産物の販路拡大に取り組んでいきます。



【販売会と併せて、全国育樹祭をPR】

「古川工業高等学校林業就業体験」の支援

東部地方振興事務所登米地域事務所

【16日(水)】

令和4年度に建築科2年生(当時)が植栽した苗木の育林体験として、同1年生が下刈作業を体験しました。作業は手鎌を使用して行い、生徒達は普段扱うことのない大型作業具に悪戦苦闘しながらも安全に作業を行うことが出来ました。

終了後は当所から育林作業(下刈)の意義やFSC認証制度について講話を行い、生徒からは、



【下刈体験】

「登米市の先進的な森林保全の取組や木材を利用することの重要性が理解出来ました。」との感想が寄せられ、地域の森林・林業に対する理解が深まったと感じました。



【F S C 認証と木材利用の説明】

搭乗型草刈り機による下刈り作業の見学会の実施

気仙沼地方振興事務所

【23日(水)】

本吉町森林組合が実施主体となり、令和4年度にチャレンジみやぎ500万本造林事業の実践提案型を活用した再造林地において、搭乗型草刈り機の見学会を開催しました。

当日は、気仙沼市職員2名、管内の森林組合職員5名及び当所から4名の計11名が参加し、本吉町森林組合の担当者より活用に至った経緯などの説明や、オペレーターによる草刈り機のデモンストレーションの他に、参加者との意見交換では操作性や長所・短所など多くの質問が寄せられ、下刈の省力化に対するニーズが高いと感じました。

この搭乗型草刈り機は、造林地が比較的緩傾斜地であることや、機械導入を見据えた植栽間隔の設定、予め造林時に伐根処理（※除去しない場合、作業効率が下がる）が必要となるなど、使用できる条件が限られますが、作業効率は非常に高く、通常の刈払い機と比較して、キックバックの心配がなく、作業員の安全が確保できるため、低コスト化や省力化につながるピースの一つとなり得ることが判りました。

今回の見学会が、造林保育の低コスト化及び省力化の推進のきっかけとなるように当所では、今後も積極的な情報提供や助言を行います。



【搭乗型草刈り機に関する説明状況】



【使用機械】



【作業実演】

ANAこころの森活動支援（１回目）

気仙沼地方振興事務所

【７日（月）】

ANAグループが南三陸町で展開する「ANAこころの森」森林保全活動の実施に当たり、世話役である南三陸森林組合及び森林所有者である、入谷生産森林組合と共同で、森林保全活動の支援及び森林・林業に関する講話を行いました。

今年度は、ANAグループ職員２９名が参加しており、南三陸地域でもシカによる樹木の皮剥被害など増加傾向にあることから、ANAこころの森のヒノキ林に獣害対策として防護テープの巻き付け作業を実施しました。

参加者は悪戦苦闘しながらも、作業を行っていましたが、普段立ち入ることの少ない森林内で、森林浴や登山を楽しみながら森林保全活動に努めていました。

また、県からは木材を選択して購入することで誰でも気軽にSDGsに貢献出来ることや、森林の重要性等について講話を行い、森林・林業について興味を持って頂きました。

このような企業によるCSR活動がPRされることにより、更に波及し、地域の森林整備や地域材需要拡大につながることを期待して、今後も支援を継続していきます。



【防護テープ巻き作業説明】



【皮剥被害木の状況説明】

学校法人尚絅学院大学の里山再生プロジェクトに支援

林業技術総合センター

【12日(土)】

大学の要請を得て標記プロジェクト活動を支援しました。

里山を散策し、いくつかの不明樹種の問い合わせに答えつつ、トウゴクサイシンやギンリョウソウの説明を受けました。

散策では、クマの出没情報があったので、対策として、対人用催涙スプレーは、適切ではない可能性がある旨を助言したこともあり、カウンターアソールト熊用スプレーと三連南部熊鈴(多少の経験から、歩行中、良く響くように、紐で腰からぶら下げようようにしている)・鉈・ケブラー繊維長靴と対策を講じた私が、先頭をまかせられました。



【朝の安全ミーティングの様子】